**第162回ペン川柳「宿」**

**世話人：平尾富男（酔深）**

**日時＝平成２９年１０月２６日～２８日、金沢私学会館での合宿**

**１０月は金沢で２泊３日の合宿勉強会でした；（\*印は今月の互選句、\*は最優秀句）**

**\*１．文春も知らぬ仏の隠れ宿　（安兵衛）　←　（４票）**スクープ記事で話題をさらい世間を賑わせた**週刊文春**ですが、その文春にも知られないで逃避行できる所があるとは！　作者はそんな秘密の隠れ家を持ちたいと願っています。

**２．加賀の宿川柳よりも酒が冴え　（我々好）　←　（１票）**１０月のペン川柳は金

沢での**出張勉強会**でしたので、ペン川柳子達が川柳そっちのけで加賀の銘酒に舌鼓

したと真実を明かしました。飲ん兵の集まった**ご当地ペン川柳会**でした、嗚呼！

**３．宿六と呼んで嬉しそ世話女房 （晃二） 　← （１票）**口では「家（うち）の宿
　六」などと蔑んで呼んではいますが、**内心は心底惚れた亭主**なんです。そんな奥さ
　ん、世話女房をお持ちの作者が詠みました。（勝手にしろ！）
**４．ヤドカリもマンション住まいにご満足　（損得）　←　（０票）**古い木造三階建
　**賃貸アパート**でも、マンションの名前さえ付けばご満悦で住んでいられます。
**５．宿賃を払わせたのが運の尽き　（酔深）　←　（０票）**ホテル代を連れの女に払
　わせるなんて男の川上にも置けません。そんなことをするから本命でもない女を嫁
　にする羽目に陥るんですよ！
**６．背の君もいま宿六でつぎ名無し　（火酒）　←　（２票）**結婚するまでは「背の
　君」と呼ばれていましたが、籍を入れた途端に「宿六」になり下がり、その内に「ね
　え」だけで用事を言いつけられるようになるんです。世話人のことを詠んだのか？
**７．宿賃が高くて心配目が冴える　（不言）　←　（１票）**誘って入ったホテルの宿
　泊代が高そうだったので、懐具合が心配で楽しむ事も出来ずにいる男の話ですね。
**８．万と聞きゃ～そんな宿とはバイバイや　（だし）　←　（０票）**元句は「万と聞
　あ」（江戸訛り？）でしたが添削されました。ホテル代が一泊一万円台と聞かされ
　ては、懐の都合上泊まることを断念せざるを得ないと、ケチな男の嘆息です！
**\*９．大金と踏み絵でタヌキの宿に越す　（明迷）　←　（３票）**時季を得た時事川柳
　で、小池百合子さんの影響力を頼む議員さんたちを詠みました。**タヌキの宿とは「希
　望の党」**のことなんです。そう言えば、百合子さんタヌキにお顔が似てきましたね！
**１０．おどかすな老いの宿替うん億円　（井波）　←　（０票）**元句は**「うん千万」**　でしたが、最近の**インフレ傾向を考慮**して添削されました。連れ合いに先立たれて
　老人ホームに入ろうとしても、その入居費用の高額さに諦めざるを得ない、嗚呼！
**１１．時移り連れ込み宿は今「ラブホ」　（酔雅）　←　（２票）**元句は**「ラブホテ
 ル」**でしたが添削されました。作者が頻繁に利用していた頃は**「連れ込み宿」**でし
　たが、時代が移ろい、今では「**ラブホ**（←ラブホテル）」と呼ばれています。もう
　作者は行っても用を足せません（泣）
**\*１２．甲斐性なし宿なしだよと女房吠え　（我々好）　←　（４票）**第十九句と同点
　首位となった甲斐性有りの優秀句です。六十歳過ぎて（過ぎるずっと前から？）家
　も持てないなんてと奥方に蔑まされるようになっても、ペン川柳子が**高得点で**作者
　を励ましてくれます。好いクラブですよね～

**１３．旅の宿「湖畔の宿」に「北の宿」　（鬼瓦）　←　（０票）**昭和十五年に**高峰三枝子**が***♪山の淋しい湖に♪***と歌った「湖畔の宿」と、三十五年後の昭和五十年発表の**都はるみ**の代表曲の一つ***♪あなた変わりはないですか♪***の「北の宿から」を並べました。[阿久悠](https://ja.wikipedia.org/wiki/%E9%98%BF%E4%B9%85%E6%82%A0)・作詞と[小林亜星](https://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%B0%8F%E6%9E%97%E4%BA%9C%E6%98%9F)・作曲のコンビによる大ヒット歌謡曲を詠み込んだにも関わらず得点は叶いませんでした（泣）。

**１４．加賀の宿夢にたゆたう主計（かずえ）町　（安兵衛）　←　（１票）**出張勉強会のご当地を詠み込みましたが、入選は夢と散りました。**主計町**は**ひがし茶屋街**・**にし茶屋街**と並ぶ**金沢三茶屋街**の一つですが、懐具合が適わなかった我が川柳子達は茶屋街では遊べずに夢で見ただけでした。（世話人としてはこの句を最優秀句にしたかったんですが！）

**\*１５．食べるほど無口になるよ蟹の宿　（零門）　←　（３票）**物を食べるのも口、お喋りするのも口です。でも、一度に両方は行うのは無理ですよね。まして、蟹を食べながらお喋りなんて無～理～！　残念ながら今回ペン川柳子達の泊まった宿では蟹は出ませんでした（泣）したがって、飲むほどによくお喋りしました。

**１６．北の雨核の傘にて雨宿り　（損得）　←　（２票）**北朝鮮からの核攻撃を恐れる周辺国、特に**日本はアメリカ（トランプ大統領）の庇護**に頼らざるを得ませんが……。　桑原桑原！

**１７．今宵又うろつき歩く宿六め　（不言）　←　（０票）**元句の下五は**「我が宿六」**で字余りでしたので添削されました。**「家で独り寂しく待っている身にもなってよね！」**　まして海外生活では寂しさは一入ですよね。

**１８．雷も呆けて早くに宿を発つ　（明迷）　←　（０票）月、日、雷の三人が旅に**出たのは好いが、ゴロゴロと煩い雷を置いて、月と日が朝早く旅発ってしまった。

慌てて雷も追い掛けました。でも、残された雷は仕方なく夕方旅発つ、つまり夕発ち（立ち）するのが本来の姿です。朝からゴロゴロ鳴る呆けた雷は**朝立ち**という？！

**\*１９．ああ傘寿次の宿替え千の風　（酔雅）　←　（４票）**「もう八十歳になってしまったよ。**次に引っ越すのはあの世だ**」と嘆息しています、嗚呼！　ペン川柳諸氏のことを代表して詠いましたね。第十二句と同点首位の優秀句です。

**２０．宿六の身にはしみじみペット愛　（鬼瓦）　←　（１票）**連れ合いから宿六
と呼ばれて家の中に蟄居していると、いつも身近に居るペットしか愛する対象はないのだと嘆息しています。悲しい句ですね！

**２１．湯の宿で金婚迎え妻笑顔　（零門）　←　（２票）**「よくもまあ臆面もなくこんな句を提出できますね～」と座の川柳子が口をあんぐりしていました。（勝手にしろ！）でもこれが本来の年寄り夫婦の姿であるべきなんです。零門ご夫妻に心からオメデトウを申し上げます！

**２２．忘れまじ相手は必ず宿を訊く　（晃二）　←　（０票）**旅先の街で出逢った相手と懇ろになると、当然相手はどこに泊まっているのかを尋ねてきますから、ゆめゆめ安宿なんかに宿泊してはいけませんというアドヴァイスです。作者の苦い経験談です！

**２３．北の宿身を寄せ寒さこらえたね　（酔深）　←　（０票）**第十三句でも引用された都はるみの***♪あなた変わりはないですか♪***「北の宿から」を念頭に詠まれた句です。川柳になっていません！

**２４．身の程を知らぬヤドカリ引っ越し魔　（火酒）　←　（１票）**党を渡り歩く元民進党の議員さんたちを詠んだ将に時機を得た時事川柳です。

**２５．宿一つ艶めく誘い鏡花の美　（井波）　←　（１票）**妖艶怪奇な『高野聖』等の作品で有名な**泉鏡花**が生まれた金沢で開催されたペン川柳会です。艶めくお誘いが大好きな作者は、宿で独り悶々としていたと告白しました。

**２６．新聞の届かぬ宿に時代（とき）を知る　（だし）　←　（２票）**一時代昔の地方の宿を詠んだのでしょうか？　なんとなく雰囲気は分かりますが、少々難しい川柳です。

**今月は、第１２句（我々好）と第１９句（酔雅）の二句を最優秀句として選びました。**

**参加者＝（７名→１４句）稲宮健一（井波）、山縣正靖（安兵衛）、平尾富男（醉深）、浜田道雄（我々好）、三春（火酒）、安藤晃二（晃二）、大野ただし（だし）**

**欠席投句者＝（６名­→１２句）八木信男（明迷）、細谷博（損得）、富田佳瑞（鬼瓦）、西川武彦（酔雅）、松谷隆（零門）、岩崎洋一郎（不言）**

**無事に金沢合宿を終えて、愈々今年も残すところ二カ月となりました。寒さも一段と**

**厳しくなる季節に向かいます。ペン川柳メンバーには、益々お身体ご留意頂き、残る**

**二カ月を更に充実させて新しい年を迎えたいと思います。来年の合宿は関西の箕面に**

**決定しました（←八木明迷さん、宜しく！）。**

**―　今後の日程（来年以降の日程とお題は次回決定しますので、それまで布団に入って寝て待っていてください）：**

**１１月２４日（金）「寝る」、１２月２２日（金）「布団」**